

令和 6 年度
学校・家庭・地域連携支援事業報告書

《モデル校》

教育事務所	市町村	学校名	学校長氏名
水 戸	水戸市	水戸市立新荘小学校	関谷 隆徳
県 北	常陸太田市	常陸太田市立里美小学校	坏 聡美
鹿 行	鹿嶋市	鹿嶋市立三笠小学校	山本 勇
県 南	土浦市	土浦市立都和南小学校	岩瀬 良伸
県 西	八千代町	八千代町立安静小学校	石塚和佳子

《実践研究テーマ》

学校名	テーマ
水戸市立新荘小学校	保護者を支える家庭教育力向上支援 ～地域力を生かした取組を通して～
常陸太田市立里美小学校	一人一人が輝く学校づくり ～地域学習「里美学」を通して～
鹿嶋市立三笠小学校	三笠プロジェクト「みんなの地域にするために」 ～学校・家庭・地域との連携による取組を通して～
土浦市立都和南小学校	小学校区防災訓練をととした、地域コミュニティの連携強化
八千代町安静小学校	学校・家庭・地域の連携による、そのよさを生かした魅力あ る教育活動の推進

茨城県教育委員会

令和6年度学校・家庭・地域連携支援事業報告書

学校名（ 水戸市立新荘小学校 ）

1 学校全体としての取組

○子ども・保護者・地域がつながる場の設定

・朝のあいさつ運動

本校では、例年、地域の「新荘地区女性の会」の皆様と児童が一緒になって、朝のあいさつ運動を行ってきた。地域や子育ての「先輩」である女性の会の方々と保護者がつながりをもつことで、地域の様々な行事に保護者が参加しやすくなるなどの成果があった。



・地域の祭りや市民運動会

地域の祭りや市民運動会に、PTA活動の一環として参加した。例年、子どもと地域がつながる場という印象が強かったが、今年度は保護者も多数参加し、準備や運営、片付けを地域の方々と共に行った。保護者と地域の方々が積極的にコミュニケーションを取り、つながる場として大いに機能した。



・地域住民を学校に招き、地域の歴史を学ぶ授業

本校学校運営協議会の発案・企画で、住みよいまちづくり新荘会会長を招いて、「新荘の歴史を知る会」を開催した。4・5年生児童と希望する保護者が参加し、地域の変遷や歴史的建造物等に関する話を聞いた。児童・保護者共に郷土愛を育み地域の方々とつながる機会となった。



○家庭教育力向上のための講演会の実施

- ・ P T A の企画による、子育てに関する講演会

保護者が、子育てに関する講演会を企画・実施した。茨城県生涯学習・社会教育研究会会長を招き、多くの保護者が参加した。子どもとの関わり方や育て方に不安を抱く保護者が子育てに自信をもてるよう、大変示唆に富んだ内容であった。



2 家庭・地域等との連携の工夫点

学校の実態・課題を踏まえ、保護者と地域がつながる場を創出したり、地域にある教育資源を活用した企画を実施したりして、保護者を支える家庭教育力向上支援を行ってきた。それらを進める上で工夫した点は、学校主導の企画だけでなく、P T A や学校運営協議会が主体的に発案・企画・実施できる環境や予算を用意した点である。P T A や学校運営協議会の方々の発想は大変すばらしく、学校はそれらを実現できるよう環境を整えたり予算を用意したりした。

3 事業の成果と課題

【成果】

- ・生活に関する保護者アンケート（7月、12月実施）
→家庭での子どもの様子に係るすべての質問で、肯定的回答が増加した。
- ・保護者を支える家庭教育力向上支援教職員アンケート（2月実施）
→今年度の本校の取組が、家庭教育力向上に結び付いたと回答した教職員 81%
- ・日常的な地域の方々との交流での意見交換（通年実施）
→「地域の祭りや市民運動会への保護者の参加や、手伝いが増えた」、「今後も地域のために力を発揮して行ってほしい」という意見があった。
- ・コミュニティスクール（学校運営協議会）での意見交換（1月実施）
→「保護者と地域のつながりの創出や、地域にある教育資源を活用した企画を行うことは大変意義のあることなので、今後も継続したい」という意見で一致。

【課題】

保護者を支える家庭教育力向上支援に向けて、学校・家庭・地域が共に手探りで進めてきた。今後、取組の反省をさらに進め、生活に関する保護者アンケート結果との相関関係を丁寧に調査し、次年度の取組に生かす必要がある。

令和6年度学校・家庭・地域連携支援事業報告書

学校名（ 常陸太田市立里美小学校 ）

1 学校全体としての取組

本校の教育目標「思いやりとやさしさにあふれ夢や志をもって未来を切り拓く児童生徒の育成」を目指し、学校・家庭・地域が連携して児童を育成するために、地域学習「里美学」を通して、地域資源を活用した教育活動に取り組んでいる。「里美学」を通して児童の郷土愛を育み、家庭・地域の人との関わりの中で豊かな心を育てるため、以下の活動に取り組んだ。

【地域学習「里美学」の実践】

- (1) 里川カボチャを育てよう（小学校3・4年生、保護者、里川カボチャ研究会）
- (2) 学校で里川カボチャを栽培しよう（小学校3年生）
- (3) かかし祭りに参加しよう（小学校3年生、中学校1年生、保護者、地域）
- (4) 里川カボチャを使った料理を作ろう（小学校3年生、保護者）
- (5) 「里美学」のまとめ（小学校3～6年生）

2 家庭・地域等との連携の工夫点

(1) 里川カボチャを育てよう

小学校3・4年生が、地域の伝統野菜である「里川カボチャ」の栽培を、里川カボチャ研究所、保護者と連携して行った。里川カボチャ研究所の畑に親子で出向き、定植の仕方を教わりながらカボチャの定植を行った。



(2) 学校で里川カボチャを栽培しよう

里川カボチャ研究所の畑での体験活動を生かして、小学校3年生が学校の畑で里川カボチャの栽培に挑戦した。学校に里川カボチャ研究所会長に来ていただき、カボチャの特徴や種まき、収穫などについて話を聞いた後、畑にカボチャの種をまいた。水やりや草抜きなどの世話をを行い、9月にカボチャの収穫を行った。



(3) かかし祭りに参加しよう

里美小中学校では、小学校3年生と中学校1年生が協力して作ったかかしを、地域のお祭りである「里美かかし祭り」に出展している。地域の方からいただいた藁を「こも編み」という技法で編み上げ、かかしにしていける。中学生が小学生に教えながら、協働で作業を進めた。今年度は、学生の部でグランプリを受賞した。



(4) 里川カボチャを使った料理を作ろう

小学校3年生は里川カボチャ研究所と共に作ったカボチャを持ち帰り、各家庭でカボチャを使った料理作りを行った。カボチャのパンケーキやカボチャの甘煮、カボチャプリンなどを作り家族で味わうことで、学校・家庭・地域との連携ができた。



(5) 「里美学」のまとめ

小学校3年生から6年生まで、それぞれの課題のもとで学習した「里美学」について、模造紙やパワーポイントにまとめ、中・高ブロックごとや授業参観の中で発表会を行った。身近な地域の自然や社会との関わりについて課題を見付け、様々な方法で解決した内容についてまとめ、発表することができた。

3 事業の成果と課題

【成果】

- ・学校評価アンケートによる保護者の回答では、「学校はお子さんが楽しいと思えるように努めている」に対する肯定的回答は93.5%、児童の「学校生活は楽しい」に対する評価は94.3%であった。学校が家庭・地域と連携して行う様々な活動が、充実した学校生活を送っているという肯定的評価につながった。
- ・地域学習「里美学」を通して、児童の感想は「みんなで里川カボチャの苗を植えたことが楽しかった」「里川カボチャはあまいし、いろいろな料理やお菓子に使えることが分かった」「おいしいカボチャがとれてうれしい」という感想があった。里川カボチャ研究会からは「学校と地域が連携して地域の特産物である里川カボチャについて理解が深まり、子供たちに受け継がれることが嬉しい。里川カボチャを存続させるためにも、子供たちと共に活動することに大きな意義がある」という感想があった。
- ・学校・家庭・地域との連携や協働的な活動により、児童は地域のよさを再発見し、地域の一員として自分たちにできることは何か考えることができた。

【課題】

- ・今後も、小中学校が連携して行う地域学習「里美学」をさらに充実させ、社会に開かれた教育課程を実現するために、学校・家庭・地域が連携した教育活動を広く発信していく。また、地域連携の学校行事の運営や、子供たちの地域行事への積極的な参画を推進する。
- ・里美地区で行っている様々な催しやイベント等に子供たちが自分たちの意見を反映したりアイデアを出し合ったりできるように、学校運営協議会や、振興公社等と連携して具現化を図り、より学校・地域・家庭が連携できるように推進していく。

令和6年度学校・家庭・地域連携支援事業報告書

学校名（鹿嶋市立三笠小学校）

1 学校全体としての取組

本校の教育目標「夢や希望をはぐくみ、個性を生かして学ぶ児童の育成」を目指すためには、学校・家庭・地域の連携が重要になってくる。保護者や地域の方々と多くの場面で関わりをもつことは、子どもにとって安心した学校生活の環境づくりに繋がっていくからだ。多くのことを経験することで、豊かな心を育成していくことは大切なことである。そこで本校は以下の活動を中心として取り組んだ。

- (1) あいさつ運動を中心とした交通安全の取組
- (2) 家庭・地域と連携した取組
- (3) 小中連携の取組



みかさまつり発表

2 家庭・地域等との連携の工夫点

- (1) あいさつ運動を中心とした交通安全の取組

① 交通安全協会の支援

9月と12月の5日間、交通安全協会の御協力により、交通安全立哨を実施した。正門と北門に2名ずつ、計4名の方で立哨指導を実施した。



② 小中合同あいさつ運動

年3回、小中合同あいさつ運動を三笠小学校で実施した。鹿島中の生徒は計画的に参加し、小学生の良いお手本となる活動をした。

③ 三笠みまもり隊によるあいさつ運動

毎月1回、三笠みまもり隊の方々が来校し子どもの交通安全に関わっている。登下校の子ども達に交通安全を呼び掛ける指導も熱心に行っている。



(2) 家庭・地域と連携した取組

公民館と連携して子どもの地域活動を推進した。特に今年度初めて実施した夏季休業期間中の学習補助は保護者や教員等も関わった。また三笠みまもり隊や地域の人的資源を活用して特別活動の授業を実施した。子どものために協力的に取り組む様子が印象深かった。さらにPTA役員が中心となって実施した給食試食会では多くの保護者が参加し、学校給食の雰囲気を味わう良い機会となった。



公民館学習



小4点字体験



小3お仕事講話



給食試食会

(3) 小中連携の取組

鹿島中学校の生徒と連携した活動を計画的に実施した。小中合同あいさつ運動は5・7・12月に実施し、三笠小学校の児童玄関前であいさつ運動を展開した。連携がスムーズにできたので、子どもの主体的な活動となった。

小学生の学習サポートは中学生が真剣に教えることができ、小中の繋がりを感じる事ができた。中学生の学習サポートは夏季休業期間中に本校の教員が鹿島中に行って学習のサポートに取り組んだ。



小中合同あいさつ運動



中学生学習サポート



小学生学習サポート

3 事業の成果と課題

【成果】

- ◎三笠小学校の子どものために、家庭だけでなく、地域にも協力の輪を広げたことで連帯感を感じる機会が増えた。また子どもにとって学校生活の活性化が進展し、交通安全に関する意識の向上にも繋がった。※参照（学校評価・地域あいさつできた児童92%）
- ◎小中連携の取組が学校間の共通理解を深めたり、中1ギャップの是正に繋がったりして良い試みとなった。※参照（小中共通スローガン「なりたい自分になるために」に決定）

【課題】

- ◇公民館やみまもり隊との話し合いについては担当者の業務負担軽減に向けた基準を作成する必要がある。※参照（学校運営協議会意見「協力依頼は随時やる」「特別講師の引き受け」）
- ◇小中連携については小小間の連携を再構築し、行事や授業の連携についても再吟味して取り組む必要がある。

令和6年度学校・家庭・地域連携支援事業報告書

学校名（土浦市立都和南小学校）

1 学校全体としての取組

各地区の地域の方々と連携し、住民が災害に備えるための訓練や準備活動である。また、消防署や警察署の協力を得ながら、避難経路や避難所の確認、非常食や救急キットの準備、地震や洪水など様々な災害への対処方法の学習を行う。

2 家庭・地域等との連携の工夫点

各地区長をはじめ、日頃から児童の登下校を見守って下さっている防犯パトロールの方や地域の方々の協力を得て防災訓練の実施を行った。また、土浦市消防本部から消防隊員やレスキュー隊の方々に協力していただき消防訓練、煙体験、救命救急、消防車など防災への意識付けをしてくださいました。更に、保護者への引き渡し訓練も実施し、地域の方々と保護者と一体となった防災訓練が行われた。なお、児童は避難訓練も行い、避難経路の再確認をすることができた。

合わせて、防災訓練後も、数日間防災訓練関係の写真掲示に協力をしていただき、児童は改めて見学することができた。



【児童を見守る体制イメージ図】

3 事業の成果と課題

【成果】

家庭や地域と学校が連携することで、災害時に地域全体で助け合う体制を築くことができた。人体模型を使った心肺蘇生法や消火器訓練や煙体験ハウスの実施を、消防署員から専門的に指導されることで、より充実した体験学習を行うことができた。また、多くの保護者や児童が満足し、防災に対する意識が向上した。教職員についても専門的な指導があり、大変役に立つ活動であった。学校・家庭・地域が連携することで、都和南地区の住民にとっての災害時への備えや避難に対する意識を高めることができた。



【消防署員のお仕事の説明】



【消防車の説明】



【煙体験ハウス】



【心肺蘇生法】

【課題】

今回は防災訓練での実施であるが、今後は様々な災害での対応や地域で多くの訓練を実施していく必要があると感じられた。本校は、地域の避難所にもなっているので避難所体験等も時間を確保して実施していきたい。

令和6年度学校・家庭・地域連携支援事業報告書

学校名（八千代町立安静小学校）

1 学校全体としての取組

- 1 地域の協力による教育活動の充実
（登校時の安全指導、地域の協力による学習）
- 2 地域の高齢者施設との交流等を通じた福祉教育の充実
（高齢者との交流、認知症サポーター養成講座）
- 3 小学生と園児との交流を通じた優しさや思いやりの心の育成
（1年生と新入児との交流会）
- 4 保護者や家族との絆を深める体験活動の充実
（安静ふれあいデー、昔あそび交流会）

2 家庭・地域等との連携の工夫点

- 1 地域の協力による安全の確保、教育活動の充実

(1) 地域ボランティアによる登校時の安全指導

地域の方々がボランティアで、児童の登校時に交通量の多い交差点等で見守りをしてくださっている。あいさつの声かけもしていただき、子どもたちにとって地域の方とのふれあいの一つになっている。令和6年度は、10名の方にご協力をいただいている。

(2) 地域の協力による学習

2年生が生活科「まちたんけん」の学習において、学校周辺のお店や事業所の見学を行った。地域の方々には子どもたちの質問に丁寧に答えていただき、また、励ましの言葉もかけていただいて子どもたちの学習意欲は一層高まり、地域の特色を知る有意義な活動になった。



- 2 地域の高齢者施設との交流等を通じた福祉教育の充実

(1) 高齢者との交流

4年生が学区内にある「特別養護老人ホームフィオーレ」を訪問し、高齢者との交流会を行った。はじめに学校紹介を行い、続いてリコーダーでの「聖者の行進」「エーデルワイス」の演奏と、「ジンギスカン」のダンスを披露した。最後に、手作りのメッセージカードと鉢花を贈った。高齢者の方々からはハンカチとモールのお花をいただき、握手をしたり一緒に写真を撮ったり心温まる交流ができた。子どもたちからは「喜んでもらってうれしかった」「また、遊びに行きたい」などの感想が聞かれ、高齢者との交流を楽しむとともに、高齢者に対する尊敬や感謝の心を育てる活動になった。



(2) 認知症サポーター養成講座

町福祉介護課、キャラバン・メイト連絡協議会から講師を招き、6年生が認知症についての学習を行った。認知症の症状や発症の原因、認知症の方への接し方について、分かりやすく話していただいた。認知症の方に対して優しく適切に接する力を身に付ける機会となった。

3 小学生と園児との交流を通じた優しさや思いやりの心の育成

(1) 1年生と新入児との交流会①「秋ランドへようこそ」

地域の幼稚園・保育園と連携を図り、来年度入学予定の園児を招待し、1年生との交流会を行った。はじめに、1年生が準備した「秋ランド」でいろいろなゲームなどをしながら一緒に遊び、次に、一緒にパンジーの苗植えを行った。活動の中で、1年生は優しく声をかけたり園児の活動を手伝ったりするなど、様々な場面で相手を思いやる姿が見られた。パンジーは来年春には満開で新入児を迎えられるよう、1年生が大切に育てている。



(2) 1年生と新入児との交流会②「なかよし会（入学体験会）」

新入児保護者説明の際に、1年生と新入児が2回目の交流会を行った。教室で自分の席に座らせたり、ランドセルを背負った新入児の手を引いて校舎内を案内したりして、小学校の雰囲気を体験させた。その後、じゃんけん列車などで時間を過ごし、最後に1年生が手作りのカードをプレゼントした。活動の中で1年生の優しい姿が見られ、また、最初は緊張気味だった新入児も次第に楽しそうな顔を見せ、小学校入学への期待を高める機会になった。



4 保護者や家族との絆を深める体験活動通の充実

(1) 安静ふれあいデー

全児童が親子体験活動で手びねりを行った。講師の方に作り方を教わり、親子で言葉を交わしながらカップやお皿などの制作に取り組み、豊かな時間を過ごすことができた。



(2) 昔あそび交流会

1年生児童が祖父母や地域の方にご協力いただき実施した。普段遊び慣れていない竹とんぼやコマ回し、お手玉などの遊び方を優しく教えていただき、子どもたちはとても興味をもって工夫しながら楽しむことができた。祖父母の方からは「孫達とのふれあいができて楽しかった」との意見が聞かれた。



3 事業の成果と課題

【成果】

- ・地域の協力を得ることで、児童の学習意欲が高まり、より効果的な体験活動を行うことができた。
- ・地域の高齢者施設や保育園、幼稚園と連携した取組は、児童の心の成長を促し、優しさや思いやりの心を育てることに繋がった。

【課題】

- ・授業支援を含め、学校教育に協力をいただける人材を、普段より把握できるようにしておきたい。
- ・事業所や保幼との連携のためには互いの都合もあり日程調整が必要である。単学級の学校のため、担任だけの負担にならないように組織で対応したい。
- ・児童の移動が伴う校外学習や訪問等では、その移動手段や安全確保の面で、配慮が必要である。